

埼玉県指定出資法人あり方検討委員会事前ヒアリング
Aグループ（公財）埼玉県公園緑地協会 議事概要

1 開催日時 令和6年10月1日（火）15時33分～16時01分

2 開催方法 オンライン会議

3 出席者

（1）委員 伊藤（伸）委員、栗田委員、林委員

（2）県 ・事務局 行政・デジタル改革課 秋穂主幹、新井主査
・法人所管課 公園スタジアム課 下田主査、井上主査、矢島主任

（3）法人（公財）埼玉県公園緑地協会
関口常務理事、大山総務部長、松尾経営企画部参与、大野副参事兼経営課長、
矢野経理課長、府瀬川企画課長、鈴木埼玉スタジアム2002公園管理事務所長、
木部熊谷スポーツ文化公園管理事務所長、荻原こども動物自然公園管理事務所長、
小田秋ヶ瀬公園管理事務所長、福山しらこぼと公園管理事務所長、
福田川越公園管理事務所長、町原加須はなさき公園管理事務所長、

4 ヒアリング内容

（委員）

しらこぼと公園と川越公園、加須はなさき公園におけるプール事業について、公園毎でも全体でも構わないので収支を教えてほしい。

（法人）

3水上公園全体で、昨年度8,400万円のマイナスとなっている。

（委員）

事前の資料には恒常的な赤字といった記載があるが、プール事業も恒常的な赤字となっているのか。それとも公園全体、プール事業以外も恒常的な赤字なのか。

（法人）

事業によってはプラスとなっているものもあるが、全体的な収支は3水上公園ともマイナスになる。

（委員）

しらこぼと公園と川越公園、加須はなさき公園について集中的に聞きたい。しらこぼと公園は恒常的な赤字なのか。また、赤字の場合、その要因は何か。

（法人）

しらこぼと公園も恒常的に赤字になっている。赤字の要因について、プールのみということであれば1回引き取らせてほしい。

（委員）

後程分かったら教えてほしい。また公園利用者が増加していることから、公園に対する満足度の高さが伺えるとの評価だが、本当にプール事業への満足度が高くなっているのか。利用者へのアンケート調査などは実施しているか。

（法人）

夏季プールの利用者に対するアンケートを3水上公園で実施している。

(委員)

3公園全体が恒常的な赤字ということで、それぞれの事業にきちんと計画があって、1年後にどういう評価になったのかということを繰り返さないと、恒常的な赤字の本質に辿り着けない。その辺がすぐに出てくるようでないと、この3公園全体の赤字をどうやってフォローしていくか見えてこない。恒常的な赤字を回復するための施策としてはどのようなことを考えているか。

(法人)

今年度は夏のプール期間中に家族などでのプライベートな空間を保てるリゾートエリアを増やしたことで増収となった。このように自主事業で収益を増やしていくことは当然だが、施設の経年劣化が激しく、修繕費が追いつかない部分があり、プールの入園料の改定について県と協議を進めたいと考えている。

(委員)

修繕は毎年県の予算で実施していると思うが、その修繕を除いた運用上の収支について評価を聞きたい。

(法人)

修繕は県で実施してもらっているが、やはりプールの前になると時間の関係上、県にお願いできないような突発的な修繕が多く発生し、それが毎年修繕費を圧迫している。

(委員)

修繕費用はどのくらいか。

(法人)

参考までに加須はなさき公園は、今年度修繕に約2,000万円かかった。これは毎年恒常的にかかっているもので、今年もしらこぼと公園と川越公園で給水管からの漏水が発生したことなどもあり、緊急的に修繕を行うため100万円単位で費用がかかっている。

(委員)

プール事業については、長期的に見てどのように修繕を行っていくかという検討が必要である。埼玉県に海がないため県民に利用してもらうということが事業の目的になっているが、公園の開設当時から違って修繕が必要になってきており、黒字で経営している民間のプールもある。なぜ赤字なのか、入園料が低ければそれを上げるとか何か対策があって、それによってこのプール事業をどうしていくのかということを考えていかなければならないが、その辺りの評価はどうか。

(法人)

委員指摘のとおりであり、自主事業の活性化を図り、入園料の改定についても県と協議していきたい。

(委員)

事前資料を見ると、プール事業の黒字は2か月から3か月しかない中で、法人側から見たときに、もうプール事業からは撤退して他の事業をやらなければならない時期になっていると感じた。このプール事業はどの法人が実施しても黒字にならないと思うが、その辺りはどのように感じるか。

(法人)

確かに夏場の2か月、3か月、そこでの利用料金収入が公園の収入の大部分を占めるため、公園の指定管理者を受託しないと、何らかの見直しを県に働きかけるとか、そういったものを当然考えていかなければならないタイミングであると思っている。ただ、この協会はもともとプール事業を出発点として発足しており、赤字の公園だから指定管理者として受託しないと、そのようなことを言うつもりはなく、多くの県民に少しでも低廉な価格で利用してほしいということで、公園の指定管理を引き受けている。

(委員)

こども動物自然公園については魅力が足りないと思える収支であった。何か魅力づくりについて考えていることはあるか。今のままでは収支の改善は難しいように思われる。

(法人)

こども動物自然公園については、入園者数がコロナ前に戻りきれていないという状況にある。少子高齢化で子供の数が少なくなってきたことも1つの要因としてあるため、今後は大人や高齢者など幅広く訴求するような施設を作ることを検討していきたいと考えている。

(委員)

上野動物園があるから県内に動物園がなくてもいいというわけではないため、動物園のプロである皆さんが何か魅力的な提案をしていかなければならない、そういう時期に来ているような気がする。特に維持費については動物がいるために労務費がかかるというところもあるため、来園を促すような提案をしてほしい。

埼玉スタジアム2002公園については今後どうしていきたいのか。思いがあったら聞かせてほしい。

(法人)

埼玉スタジアム2002公園についてはサッカー場がメインとなっているため、従来はサッカーの試合が多く収入を占めていたが、現在は利活用促進という観点から、サッカー以外のコンテンツをメインピッチ等で行うことを始めている。

(委員)

それは県費を減少させるような内容か。また何か県の規制により実施できないといったものはあるか。

(法人)

県とは連携しながら進めているため、県による規制があってもできないということは少ない。今後取り組む事業によっては収益が大幅に見込めるものも考えられるため、現在の県からの指定管理料も圧縮することが可能と考えている。

(委員)

県からの委託事業だから実施するというだけでなく、法人として発信をして、委託料をもらわなくてもやっていけるような事業を提案してほしい。さらには、埼玉スタジアム2002公園の費用をこども動物自然公園で使用するなどしてもらえるといいのではと思う。

(委員)

対象事業の5つとも、指定管理について1者応札となっている。法人ではなく県の担当者に聞きたいが、指定管理者制度が始まったときには割合いろいろな事業者が手を挙げていて、一巡後に応札者が減り、また現在複数者の手が挙がっているということが全国的な傾向と考えるが、埼玉スタジアム2002公園については十分な収益性も考えられる中、1者応札となっている原因について何か感じるところはあるか。

(法人所管課)

例えば埼玉スタジアム2002公園については、施設のメンテナンスなど専門的な分野のノウハウが必要になるため、まずはメンバーを集められない、難しいといったところがある。県としても1者応札にならないよう、指定管理者の選定をする際に各企業に声掛けなどの取組をしている。ただ、それでも現在は1者応札となってしまうため、その原因について企業に話を伺うなど、どうしたらたくさんの事業者から応募してもらえるか、引き続き検討していきたい。

(委員)

指定管理について問い合わせはあるのか。

(法人所管課)

問い合わせはある。指定管理者の選定をする際に、現場を見てもらう説明会等を実施しており、そのような際には複数の事業者が来ることもあるが、応募の段階になると1者になってしまうところである。

(委員)

必ずしも採算を取らなければならないわけではない前提の中で、何のためにいろいろな公園や施設があるかということ、県民のレクリエーションによる福利厚生であったり、それに加えて最先端のスポーツ競技を身近で見られるようにするということが、こういった施設の意義と感じている。ただ、民間が運営をしている施設もある中で、なぜ県費を支出して指定管理事業をやらなければいけないのかという理屈を、常に県の側としては持っていなければいけない。先ほども埼玉スタジアム2002公園の県費負担をできるだけ下げていくという話があったが、公園それぞれに特性があり、公園ごとに県費負担がこれぐらいでも仕方がない、あるいはさらに下げていく必要があるという色分けを明確にすべきだと考えるが、担当として感じるころはあるか。

(法人所管課)

公園によって様々な特徴があり、今回は埼玉県公園緑地協会が指定管理を行う公園が対象となっているが、それ以外の事業者が指定管理を行う公園、例えば県北には、遊具のみが設置されている公園など、利用料金のかかる施設のない公園もある。そういった公園は収入がないが、例えば伐採の費用は発生しており、それぞれの公園の特徴や収入も多様化しているため、その辺を見極めて、指定管理者と連携しながら今後の公園の魅力向上に繋がるような取組を行っていただければと考えている。

(委員)

あえてこういう委員会のため財政的な視点を深掘りしており、これだけが全てではないという前提にはなるが、対象事業の中では熊谷スポーツ文化公園の県費負担率が9割を超えており、最も高い。毎年度の予算や決算では、収入に占める県費負担がどれぐらいかということ、ある程度意識しながら見ているものか、費用としてかかるものは仕方がないからその中での指定管理料だという捉え方か。

(法人所管課)

予算要求の際に、指定管理料の関係では財政サイドからも厳しい折衝があるため、常に意識しながら指定管理者と協議をしているところである。

(委員)

ある市町村で、EBPMの考え方を特に指定管理者制度にもう少しとり入れていこうということで、まずはコストとして負担比率を何%を目途にしようという目標値を決めて、もちろん県費負担率が下がることだけがいいわけではないが、そこに利用者満足度と、使っていない人も含めた市民認知度、この3つの目標値を設定して包含的に見ていこうという取組を行っているところがある。県のケースが当てはまるかどうかは別だが、ある程度収益を得ることのできる施設や指定管理者制度を導入している施設においては、このような視点が必要と思うがどうか。

(法人所管課)

先ほど話のあった埼玉スタジアム2002公園や熊谷スポーツ文化公園には、プロスポーツチームが使用する施設もあるため、そういった施設を十分に活用して、県費負担率が下がるような取組、また県民や市民からの認知度を高められるような取組を進めていただければと思う。県費負担率を下げられるような施設がない、特に遊具やブランドがないような公園については、こういった形でコスト削減を図れるかということも、同時に検討していきたいと思う。

(委員)

収益性の高い施設はより収益化を目指し、支出のみとなる施設は1か所だけの指定管理や委託ではなく、複数をもとめて契約してロットを大きくすることで、支出を下げるという考え方がある。あるいは、どうしても大きい施設をまとめて管理しようとする、NPOのような団体が入りにくくなるため、逆にもう少し細分化した発注をすることで担い手を増やすようなことも考えられる。今後こうい

ったことを検討することも可能と考える。